

教育目標

新潟市立高志中等教育学校 学校だより

志の涵養

きらめ



教育理念

煌き

令和3年11月9日発行

自律と互敬

第84号

11月6日（土曜）に、「同窓会 記念品贈呈式典」と「前期生合唱発表会」が行われました。今回は記念品贈呈式典の様子をお伝えします。

### ～同窓会記念品贈呈式典～

高志高等学校・高志中等教育学校同窓会様より、記念品の贈呈を受けました。これは、高志高等学校同窓会長の金子博信様、事務局の荒木裕一様を中心となり「同窓会として高志中等生に何かできることはないか？」という温かいお考えのもとで準備が進められました。これを記念して、前期生合唱発表会の前に贈呈式典が行われました。

### 寄贈していただいた品

- 高志中等教育学校の教育目標「志の涵養」の原点となる「涵之如海 養之如春」の書
- 非接触式体温計・消毒液自動噴射付 2台



### 記念品贈呈式典 次第

1. 開式の辞
2. 学校長あいさつ
3. 同窓会長 金子博信様よりメッセージ
4. 贈呈記念品披露および寄贈
5. 書作成者 武田翠裕様より
6. 生徒会長お礼の言葉
7. 閉式の辞



### 記念品贈呈式 学校長あいさつ

高志中等教育学校は、平成十八年より、一貫教育・一貫校検討委員会の審議を経て、平成二十年十一月に市立高志高等学校校舎に設置され、翌平成二十一年四月に、県内で七番目の中等教育学校として、また、全国で初めての市立中等教育学校として開校しました。

「自律と互敬」を教育理念とし、「志の涵養」を教育目標に掲げ、知性と人間性にあふれる高い志をもった次世代のリーガーとなる、高い志をもった生徒を育てる学校として創立から十三年たった今も常に新たな挑戦と創造を続けています。

当校を開設するにあたり、市立高志高等学校の校舎を借り、当面は二つの学校が同じ校舎で並存しながら教育活動を行い、そして、高志高校から高志中等教育学校へと移行していく方式がとられました。

当校の前身である新潟市立高志高等学校は、昭和55年4月に開校、普通科6学級、工業科2学級を設置する全日制の高校でした。サッカー部、剣道部、ボクシング部、バスケットボール部、吹奏楽部など多くの部活動が全国大会に出場するなど活気のある学校でした。平成25年3月、27年間の歴史に閉校を迎え、その記念として前庭に「志高く」という記念碑が建てられました。

「志高く」は、まさに、高志高校から高志中等教育学校へと脈々と受け継がれる建学の礎であり、そこに学ぶ生徒たちに受け継がれるDNAであるといえるでしょう。

さて、創立13年目を迎えた本校の同窓会は、高志高等学校・高志中等教育学校同窓会となっています。これは、創立間もない学校には、卒業生がいない、同窓会を組織することができなかったということだけではなく、先にお話ししたように、高志高校と高志中等教育学校が、建学の礎を共にする学校である、ということに由来しております。そして、当初、10年間をお願いしていた同窓会会長についても、当校の卒業生が、社会人として後輩たちを見守り、支えることができるようになるまでの間、例えば、成人年齢である20年、18年という期間、高志高校同窓会の皆様に支えていただきたいとお願ひし、今日にいたっています。

本日は、同窓会の皆様より、コロナ過のもと歩みをとめず、前へと活躍するみなさんのために、検温・消毒機、そして、当校教育目標「志の涵養」の意を表す

涵之如海（これをひたすこと うみのごとし）

養之如春（これをやしなうこと はるのごとくす）

の書を、ご寄贈いただきました。

そして、その書は、高志高校、高志中等教育学校、両校にわたって、書道を指導していただきっております、武田裕一先生より、揮毫（きごう）していただきました。

先の紹介した高志高等学校閉校の記念碑「志高く」も武田先生の書であるとお聞きしております。

涵之如海

養之如春

この言葉は、郷土新潟を代表する文人である会津八一が愛し、教育に携わるものに贈ったといわれる、中国後漢の歴史家、班固が「漢書」に記した言葉です。

「学問や優れた見識は、海のように広い文化的教養にたっぷり涵ることで培われるものである。また、草花が春の暖かい日差しによって、自然に芽を出し成長していくように、人が本来持っている意欲や才能をおおらかに伸ばしていけるように、温かい愛情とまなざしをもって見守り、育んでいこう。」という意味です。

いただきました書については生徒のみなさんがいつも目にできるところに設置したいと思ひます。みなさんには、この書を目にするたびに、「志の涵養」という教育目標について、自ら振り返り、考え、高志中等教育学校生徒としての自覚と誇りを新たにする契機としてほしいと思ひます。

同窓会の皆様、武田先生、素晴らしい贈り物を誠にありがとうございました。